

# スリランカの漁村から

平和をつくり出す人々

2019年 **12月3日(火)**

2004年の大津波や26年におよんだ内戦の終結などを経て、今、スリランカの人々はどんな課題を抱え、どのように乗り越えようとしているのでしょうか？

日本以上に多文化・多宗教のスリランカで、人々が自信をつけ、貧困を克服し、立場が異なる人たちの間に理解と協働を生み出そうと取り組んでいる二人がやってきます。

マスコミやインターネットからでは伝わってこない人々の声を聴いてみませんか？

## 報告会日程

※日本語通訳あり

2019年 **12月3日(火)** 11:10~12:40

【会場】愛知淑徳大学長久手キャンパス

**8号棟 813教室**

【参加費】無料

※事前申込不要、直接会場へお越しください。

【主催】愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所

【協力】公益財団法人アジア保険研修所(AHI)

本事業は、一般財団法人大竹財団の助成金を受けて実施しています。



## 話し手 フランシス・プリヤンカラ

住民の参加と意思に基づく地方自治をテーマとしたNGO「スリランカ全国漁民連合(NAFSO)」のシニアスタッフ。内戦終了後のスリランカにおける和解のための人づくり・ワークショップ等を進めてきた。

2019年4月の同時爆発事件以降の平和の取り組みも始めている。

## 話し手 スランジ・ワサナ

ハンウェラ女性組合の創立者。生計向上活動、行政と連携して住宅建設プログラムを実施。共助のため子どもグループ活動も始めた。NAFSOの研修によって、リーダーとなり、それが実施する全国の漁民の権利を守る運動に協力している。



## NGOの活動拠点「ニゴンボ」

スリランカの西海岸に位置する漁業が盛んな都市。人口は約13万人。2019年4月のテロでは、この地の教会が爆破され、少数派キリスト教徒100名以上が犠牲になった。

公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)とは  
アジア各国の農村やスラムで人々の健康を守るため、現地の保健ワーカーを育成している国際協力NGOです。1980年に始まり、約6000人の卒業生がアジア各国で活動しています。

問合せ先: 愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所

TEL:0561-62-4111(内線2498) E-mail:igws@asu.aasa.ac.jp  
担当: 中村